

第一学年・総合的な探究の時間(C.S. Journey)実践報告

ーオリジナル教材「探究×SDGs」からフィールドワークの企画・実施までー

大塚 圭 (外国語科)

1. はじめに

2022年度から実施している新学習指導要領では、「総合的な探究の時間」が新たに導入された。旧学習指導要領では、「総合的な学習の時間（以下「総合学習」と記す）」として取り組まれていたが、小・中学校での総合学習を基盤により高度化・自律化した探究活動を実施することを目的として「総合的な探究の時間（以下「総合探究」と記す）」に名称が変更された（文部科学省2018a）。

中央大学杉並高等学校（以下「本校」と記す）の旧学習指導要領における総合学習は、高校の通常カリキュラムとは別に様々な講座を用意し、生徒が各自の興味・関心に応じて履修する授業であった¹。履修にあたっては学年を分けず、全学年の生徒が混在することになる。これらの総合学習は、通常の時間割とは別に講座内容を企画・実施するため、教員や生徒にとって時間的に大きな負担を強いるものであり、また、各活動がそれぞれ別個の目標になってしまい、相互に関連していないという課題があった。

本校では、このような課題を踏まえ、2022年度より総合探究を時間割に組み込み、1年次から3年次までの成長プロセスを明確にしたC.S. Journeyを導入することになった。本稿では、2022年度に実施した第一学年におけるオリ

¹ 土曜日の3・4時間目に中央大学と連携した「カウンセリング講座」、開発途上国でのフィールドワークを実施する「グローバルスタディーズ」、「キャリアデザイン講座」、「ネイティブによる英会話」、「茶道講座」など、多種多様の講座が開講されている。また、学校行事や外部団体の主催する各種プログラム、ボランティア活動等も総合学習に含まれる。

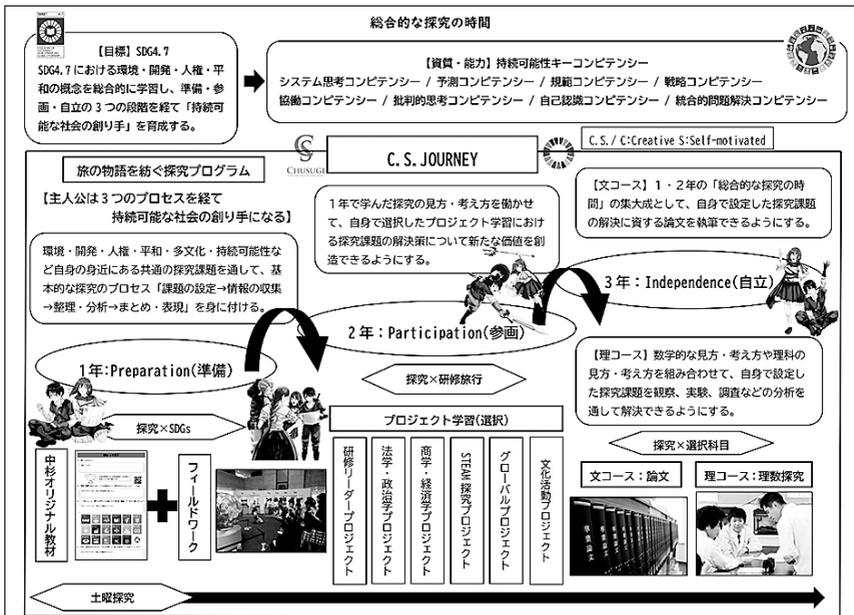
ジナル教材「探究×SDGs」の活用からフィールドワークの企画・実施までを報告する。

2. C.S. Journeyの概要

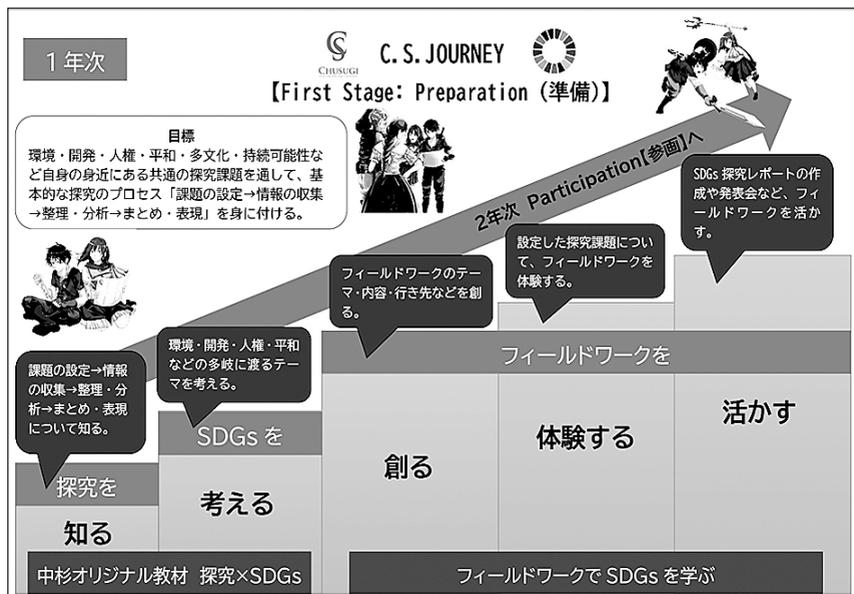
C.S. Journeyは、2022年度から実施している総合探究の名称である。C.S. は本校の愛称である中杉を表すだけでなく、創造力のある(Creative)、自発的な(Self-motivated)生徒を育成したいという願いが込められている。Journeyは、探究活動における3つのプロセスであるPreparation(準備)・Participation(参画)・Independence(自立)を意味している。

1年次(準備)では、本校のオリジナル教材を使用してSDGsや探究のプロセスを学び、フィールドワークを計画・実施する。2年次(参画)では、研修旅行(沖縄・奄美大島・東北・マレーシア・韓国)をテーマにしたリーダープロジェクトと中央大学と連携したアカデミックプロジェクトに分かれる。研修リーダープロジェクトでは、生徒が研修内容や事前学習を検討するだけでなく、学習テーマについて問いを立て、現地での調査を実施し、その内容をまとめ、発表する。アカデミックプロジェクトでは、中央大学の学部に関連する学問分野について学び、プロジェクトを立案・実施したり、外部機関が主催する各種プログラム・コンテストに参加したりする。3年次(自立)では、文コースは、1・2年の総合探究の集大成として、自身で設定した探究課題の解決に資する論文を執筆する。理コースは、理数探究において自身で設定した探究課題を観察、実験、調査などの分析を通して解決できるようにする。また、専門的な探究の見方・考え方を働かせて、課題を深く掘り下げる各教科の選択科目が設定されている。C.S. Journeyは、このような3つのプロセスを経て「持続可能な社会の創り手」²を育成する探究プログラムである。以下は、C.S. Journeyの概要及び各学年でのプログラムである。

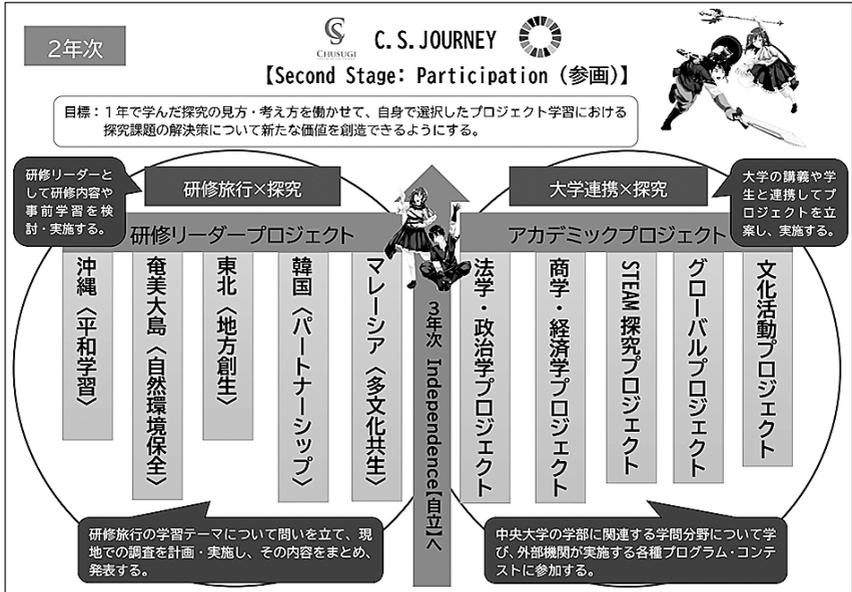
² 学習指導要領(前文)には、「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」(文部科学省 2018b, p.17)と明記されている。



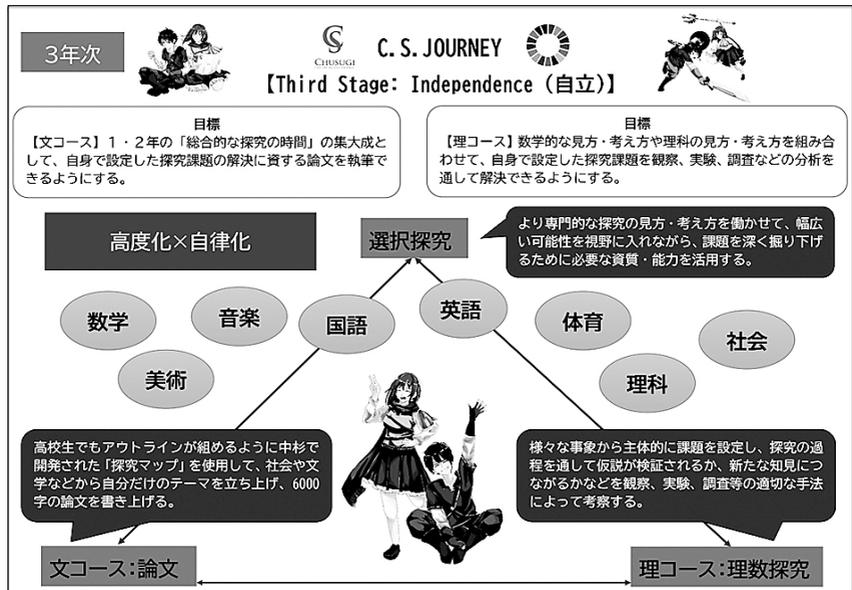
C.S. Journey 概要



1年次 Preparation (準備)



2年次 Participation (参画)



3年次 Independence (自立)

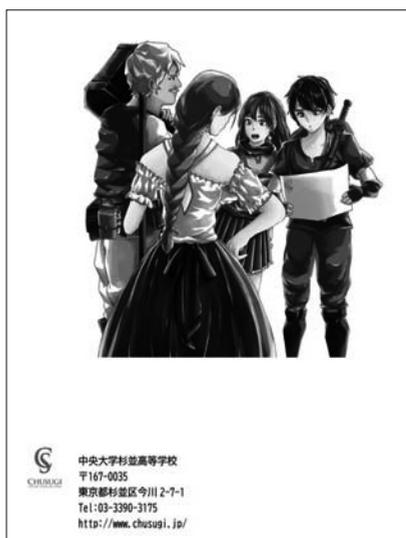
3. オリジナル教材「探究×SDGs」（1年次の前半）

(1) 目的

1年次の前半では、本校のオリジナル教材を使用してSDGsや探究のプロセスを学び、後半に実施されるフィールドワークのための準備をする。オリジナル教材「探究×SDGs～ワークシート1枚からの探究活動～」は、学際的な特徴を有する総合探究で汎用的な教材として活用することを目的としている。多くの教員がすぐに活用できるように「ワークシート1枚からの探究活動」の副題を意図して作成した探究教材である。本教材は、SDGsをテーマとした探究活動を通して、環境・開発・人権・平和の概念を総合的に学習して「持続可能な社会の創り手」を育成することを目標としている。



「探究×SDGs」表紙



「探究×SDGs」裏表紙

(2) 概要

本教材は、「探究の基礎」「SDGsの概要」「探究×SDGs」「発展活動」の4つから構成され、すべてのテーマをワークシート1枚で45～50分の授業を展開す

るように作成されている（計68ページ）。ワークシートの内容は、「問い」を中心に作成し、基本的には個人で考えたり、グループで意見を共有したりすることを前提としている。「探究の基礎」では、探究活動の基礎となる課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現のサイクルを体験する。「SDGsの概要」では、SDGsの個別の目標についてだけではなく、SDGsに関して先進国及び途上国のすべての人が協力して取り組むべき目標であることや17の目標は相互に関連していること、一つの目標に取り組むことで、複数の目標を同時に解決できることなどを日本及び世界の事例を参考に学習する。「探究×SDGs」は、本教材の中心的な役割を担い、様々なテーマに触れることで探究活動に必要な社会課題についての背景知識を身に付ける。また、「探究×SDGs」は、テーマごとに活動が設定されているため、どのテーマからでも進めていくことができる。「発展活動」では、スライド作成・ロールプレイ・ディベートなど、通常のワークシートの活動よりも時間はかかるが、アウトプットを重視している。

 もくじ	
はじめに	1
本教材について	4
資料：SDGsって何だろう？	6
1. 探究の基礎	8
(1) 探究とは	9
(2) 課題の設定	10
(3) 情報の収集	11
(4) 整理・分析	12
(5) まとめ・表現	13
(6) 【発展】プレゼン資料を作成しよう	14
2. SDGsの概要	16
(1) SDGsって何？	17
(2) SDGsの目標とは？	18
(3) SDGsと日本の社会問題とは？	19
(4) SDGsと途上国の社会問題とは？	20
(5) SDGsと日本と途上国の課題解決とは？	21
(6) 【発展】身近なSDGsを発表しよう	22

3. 探究×SDGs	23
(1) 国際協力	24
(2) フェアトレード	26
(3) 日本の食卓	28
(4) スマートフォン	30
(5) ファッション	32
(6) ジェンダー	34
(7) オリンピック（国立競技場）	36
(8) 生態系の保全	38
(9) 災害時のトイレ	40
(10) X-Tech	42
(11) Society5.0	44
(12) 音楽文化の多様性	46
(13) ワークライフバランス	48
(14) 自己デザイン	50
(15) 【発展】ロールプレイで考えてみよう	52
(16) 【発展】2030年の世界をよりよくする経済活動とは？	56
(17) 【発展】ジグソー法で調べてみよう	57
(18) 【発展】ミニディベートを体験してみよう	62
(19) 【発展】2030年の社会とは？	64
(20) 【発展】四コマ漫画を作ろう	65
おわりに	68

「探究×SDGs」もくじ

(3) 使い方

各レッスンは、一つのテーマに見開き1ページ（左：教員用解説 右：学習者用ワークシート）で構成され、ワークシート一枚で探究活動を行う。解説では、各テーマに関してのねらい及び基本的な情報を掲載している。また、「探究×SDGs」以降は、テーマに関連する複数のSDGsのアイコンを示し、それらのつながりを表している。基本的には、生徒に解説は配布せずに、教員用のガイドとして使用する。ワークシートには「問い」が設定されており、個人で考えたり、グループで意見を共有したりできるように作成した。また、QRコードが掲載されているため、それを読み取り、調べ学習や答え合わせに使用することができる。さらに、ワークシートには、吹き出しで役に立つヒントも与えられているので、基本的に教員の授業内における役割は、生徒の実情に合わせた時間管理とワークシートの進行である。生徒一人ひとりが答えを見つけていくことになる。

【教員用のねらいと解説】

ねらいは学習者の目標

解説

フェアトレードは、人と環境にやさしい貿易のしくみです。フェアトレードは、アジアやアフリカ、中南米などの女性や小規模農家、都市の若年個人など、社会的・経済的に立場の弱い人々に仕事の機会をつくりだし、公正な対価を支払うこと、彼ら自らの力で暮らしをたてていけることを目指します。

フェアトレードは、高度な生産技術や設備、最新の生産技術や設備を活用した、環境にやさしい持続可能な生産を実現します。自分たちの手で仕事ができれば、人びとは経済的な安定が得られ、暮らしが豊かになり、教育や医療などによる生活の質の向上が期待され、子どもたちは学校で勉強をします。こうしたのびやかな生活が実現し、人びとははじめて豊か暮らしを送れる。

関係する SDGs

個人で考える

QRコードは、動画や資料など考える素材

グループで意見を共有

参考にしてしている URL より詳しい解説を見ることができる。

【グローバル・ヴェルティジ「フェアトレードとは」】
 ●グローバル・ヴェルティジはフェアトレードを推進するビー・エル・シーの団体名です。
<http://globalvertical.jp/>

【学習者用のワークシート】

フェアトレード

1. 4枚の写真は、ある商品の生産の様子です。商品は？

吹き出しはヒント

2. 下記の動画（特に日本語字幕あり）の QR コードを読み取りましょう。

ヒント

3. 上記の理解と解決策を踏まえて、自分でできることを共有しましょう。

基本的には教員の役割は、学習者の実情に合わせた時間管理とワークシートの進行である。学習者一人ひとりが答えを見つけていく。

「探究×SDGs」 ページ構成

(4) 授業実践

2022年度は、1学期（4月～6月）に本教材を使用して10回の授業を実施した。1年次の授業は、基本的に担任が1クラス（40人程度）を対象に行っている。以下は、1学期の授業概要³である。

概要（2022年4月～6月：土曜日2時間目）

	日程	大テーマ	ページ	小テーマ	活動内容
1	4月15日	探究の基礎	8-9	探究とは・・・	探究活動とは何かについて考える
2	4月16日		10	課題の設定	身近にある課題から問いを設定する
3	4月23日		11	情報の収集	問いの解決を目指す活動団体を調べる
4	4月30日		12	整理・分析	SDGsと社会課題の関係性を整理・分析する
5	5月14日		13-14	まとめ・表現	問いの解決を目指す活動団体を紹介する
6	5月18日	特別編		卒業生3名講演会	探究活動がどのように実生活に生かせるかを考える
7	5月21日	SDGsの概要	16-17	SDGsって何？	自分の幸せな世界とSDGsの関連性を考える
8	5月28日		18	SDGsの目標とは？	SDGsの目標を調べて発表する
9	6月4日		21	SDGsの課題解決とは？	SDGsを生かした課題解決の事例を考える
10	6月11日	探究×SDGs	24-25	国際協力	国際協力の意義を話し合う
11	6月25日	発展活動	52-55	ロールプレイで考えよう	ダム建設の是非をロールプレイで体験する

³ 5月18日（水）は、C.S. Journeyの特別編として卒業生3名に高校時代及び大学での社会問題に対する取り組みを紹介してもらい、探究活動がどのように実生活に生かせるかを考える講演会を実施した。

先述したように、教員は、毎授業、生徒にワークシートを配布し、時間管理と進行の役割を担う。ワークシートには、QRコードや吹き出しでヒントが掲載されているため、生徒は、調べ学習や答え合わせをしながら、個人で考えたり、グループで意見を共有したりする。また、生徒は、一人ひとりChromebookを適宜使用することになっている。

例えば、6月4日の「SDGsの課題解決とは？」では、以下のワークシートを使用して授業を進めていった。テーマは、SDGsを通して日本と途上国の問題を同時に解決する方法を考えることである。題材は、ザンビアのオーガニックバナナ畑で通常捨てられる茎の繊維を利用し、日本の和紙工場で古紙を加え、質の高いバナナペーパーを作るOne Planet Café⁴の活動である。まず、生徒は、ワークシートのOne Planet Caféの活動における5枚の写真を見て日本とザンビアの問題をどのようなアイデアで解決したのかストーリーを想像して意見を共有する。この活動では、「あるところに、一匹のオラウータンがいました。オラウータンとは本来、ジャングルで暮らす動物です。しかし人間が紙を作るために、森林を伐採していたため、住処が失われていました。そこで人々は考えました。バナナの皮を使って同じようなことができるのではないかと。もしバナナの皮を使って紙を作れば問題は解決できます。そのバナナを使うことで紙を作ってくれたのがこのアフリカの皆さん！その技術は日本にまで伝わってきました。これらの紙は世界中で使われて日本でも卒業証書などに活かされています」など様々なストーリーが出来上がる。このストーリー作成は、正解を求めているのではなく、グループ内での多様な意見を尊重し、相互理解を深める機会であると考えられる。そのため、教員の役割は、グループでの話し合いの進捗状況を確認したり、時間に応じて、ストーリーを発表する機会を作ったりすることである。

⁴ 株式会社ワンプラネット・カフェは、環境循環を基盤とし、持続可能な社会づくりに貢献するビジネスを生み出すことを目的に、講演・研修、視察ツアー、バナナペーパーの生産と販売を中心とした持続可能なモノづくりを行っている。

2

SDGsの概要

- ねらい
 - SDGsは各自治体や大企業のための目標ではなく、持続可能な社会を実現するために先進国及び途上国のすべての人が協力して取り組むべき目標であることを認識する。
 - SDGsのテーマは、個別に成り立っているものではなく、17の目標は、相互に関連していることを理解する。
 - SDGsの目標にある課題は関連し合っているため、一つの目標に取り組むことで、複数の目標を同時に解決できることを理解し、そのアイデアを考える。

2. 解説

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）は、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」というスローガンを掲げています。そのため、SDGsは、開発途上国だけでなく、先進国も対象として取り組むべき普遍的な国際目標です。また、17の目標は、一つひとつの目標が個別に存在しているというよりは、お互いに関わり合っている、持続可能な社会の実現を導き出すためのものです。

関連持続可能な開発目標 (SDGs)		
<p>あらゆる層のあらゆる形の貧困を根絶する</p>	<p>すべての人々の、実効かつ持続可能な経済成長を促進する</p>	<p>気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p>
<p>持続可能な食料、農村型経済及び農業を確保し、食料安全保障を促進する</p>	<p>質の高い持続可能な産業及びサービスの創出を促進し、雇用及びイノベーションの促進を図る</p>	<p>気候変動の防止、軽減、持続可能な開発のための資金調達、気候変動適応、持続可能な消費と生産</p>
<p>あらゆる層のすべての人々の健康と長寿を確保し、福祉を促進する</p>	<p>国内及び各国間の公平な開発を促進する</p>	<p>持続可能な海洋資源の管理と持続可能な開発を促進する</p>
<p>すべての人々の質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する</p>	<p>持続可能な都市とコミュニティを構築する</p>	<p>陸域生態系と生物多様性を保護し、持続可能な開発を促進する</p>
<p>すべての人々の性と生殖に関する健康と権利を確保し、ジェンダー平等を促進する</p>	<p>持続可能な消費と生産を確保する</p>	

【環境省「持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド」】

http://www.env.go.jp/dai/ict/sdgs/guide/sdgsuide-honen_ver2.pdf

SDGsと日本と途上国の課題解決とは？

- 次の写真を見て、ストーリーを想像してみてください。



写真：
<https://sophonts.co.jp/jp/>

【グループワーク】 共有した内容をメモしよう。



写真は、株式会社ワンプラネット・カフェが日本とザンビアの課題を同時に解決したため、どのようなアイデアの想像をめぐらしたのかを説明しよう。

- 「株式会社ワンプラネット・カフェ」の QR コードを読み込んで、上記の活動について日本とザンビアの課題を解決したアイデアをまとめよう。【ワンプラネット・カフェ】

日本の課題	ザンビアの課題	解決のアイデア	結果・可能性



【SDGsとの関連】



- ワンプラネット・カフェの活動は、SDGsのどの目標と関連していますか？

【グループワーク】 共有した内容をメモしよう。（答え合わせは上記の QR コード）

教員用のねらいと解説

次に、生徒は、One Planet Café のホームページのQRコードを読み取り、日本とザンビアの課題を解決したアイデアを調べてワークシートに記入する。生徒は、「日本の課題」「ザンビアの課題」「解決のアイデア」「結果・可能性」についてまとめるが、答えは、読み込んだホームページに記述がある。この活動は、個人で行い、一人ひとりの生徒がOne Planet Café の活動を調べてまとめるため、教員は、Chromebookの操作などを確認する。生徒は、ホームページの記述からザンビアにある村の貧困問題と日本の環境問題を理解し、バナナは世界の約125ヶ国で栽培されているので、One Planet Café の活動は世界中に広がる可能性があるということを確認することができる。

最後に、グループでOne Planet Café の活動は、SDGsのどの目標と関連しているかを考え、話し合い、ワークシートに記入する。この活動でも正解を求めているのではなく、事例を通して、SDGsにおける課題は関連し合っている

生徒用のワークシート

ため、一つの目標に取り組むことで、複数の目標を同時に解決できることを理解する目的である。生徒は、話し合いの後、One Planet Café のホームページのQRコードを読み取り、バナナペーパーの活動とSDGsとの関連性について答え合わせを行う。答え合わせまで一人ひとりの生徒が自分の力で進めていくことができるので、教員の役割は、時間の管理をすることである。

上記の例のように、ワークシートの内容は、「問い」を中心に作成し、生徒が基本的には個人で考えたり、グループで意見を共有したりして主体的に活動し、教員が補助的な役割を担うことになっている。



4月15日 探究とは（ペーパータワー）⁵



5月14日 まとめ・表現⁶



5月18日 講演会



6月25日 ロールプレイで考えよう

⁵ 「探究とは」では、9つの点を一筆書きの4本の直線でつなぐ課題やペーパータワーの作成を通して、探究活動の意義を体験した。

⁶ Googleスライドを用いて問いの解決を目指す活動団体を各自紹介した。

4. フィールドワーク（1年次の後半）

（1）目的

フィールドワーク（英：field work）とは、ある調査対象について学術研究をする際に、そのテーマに即した場所（現地）を実際に訪れ、その対象を直接観察し、関係者には聞き取り調査やアンケート調査を行い、そして現地での史料・資料の採取を行うなど、学術的に客観的な成果を挙げるための調査技法である。1年次の後半におけるフィールドワークの企画・実施では、本校のオリジナル教材「Let's do fieldwork! ～探究の扉を開けていざ外へ～」を使用する。本教材は、1年次の前半に使用した「探究×SDGs」と同様に、多くの教員が活用できる汎用的な教材である。前述したように、2年次では、研修旅行の学習テーマについて問いを立て、現地での調査を実施し、その内容をまとめ、発表する。そのため、1年次では、その準備段階として前半のSDGs学習と紐づけてフィールドワークを計画・実施することで、生徒一人ひとりが問題意識をもって現場を訪れ、見学やインタビューを行うことで、その問題に対する理解を深め、よりよい解決策を提案することを目的としている。



「Let's do fieldwork!」表紙



「Let's do fieldwork!」裏表紙

(2) 概要

本教材は、前半のSDGs学習の振り返りやフィールドワークの企画・実施までを各ワークシート1枚で45～50分の授業を展開するように作成されている(計28ページ)。また、フィールドワークにおけるプランシートの記入例やコースを考えるヒントを掲載しており、生徒一人ひとりがフィールドワークの企画・実施を考えていくことになる。さらに、フィールドワークを実施するための事前学習や終了後の振り返り、ポスターセッション、レポート作成などもワークシート1枚で授業を展開できるように構成している。そのため、基本的に教員の授業内における役割は、生徒の実情に合わせた時間管理とワークシートの進行である。生徒一人ひとりがフィールドワークの計画から実施までを考え、見学やインタビューを行うことで、その問題に対する理解を深めていく。



もくじ

はじめに

1. 10月後半～3月にかけての学習予定表
2. ワークシート
 - (1) 前半学習 (SDGs) の振り返り
 - (2) フィールドワークのコースを考える
 - (3) コースプレゼン (クラス)
 - (4) コースプレゼン (全体)
 - (5) 各コースのテーマについて学習 (1回目・2回目)
 - (6) フィールドワーク事前学習発表会
 - (7) 諸注意と事前学習
 - (8) コースごとに振り返り
 - (9) 全体発表会
 - (10) 2年次コースを知る [A 研修旅行リーダープロジェクト]
 - (11) 2年次コースを知る [B アカデミックプロジェクト]
 - (12) 1年 SDGs 探究のレポートまとめ
3. 【付録】フィールドワークのコースを考えるヒント
 - (1) 行きたいところはどこ? (行き先からコースを考える)
 - (2) やりたいことは何? (活動内容からコースを考える)
 - (3) こんなことできる? (自分のアイデアを条件に合わせていく)
 - (4) フィールドワークのコース例
 - (5) もっと探究! 終了後のアウトプットの方法を考える

おわりに

「Let's do fieldwork!」もくじ



【付録】フィールドワークのコースを考えるヒント

いきなり「フィールドワークのプランを作る」って書かれても何も思い浮かばないな...という人達のために、考えるためのヒントを載せておくれ、参考になるよ!!

(1) 行きたいところはどこ?～行き先から考えよう～

フィールドワークって、「みんなと行ける日曜日選定」みたいなもの。だから、まずは行きたいところはどこか調べてみよう。あっ、1駅は駅から外してね。ぼくとミッキー君は互いに異次元の世界で生きること平和を保っているからね。

それなら、動物園に行きたいです!
高校生になってから行ってもきつと楽しいですよ。小さい頃に気づかなかったところにも目が届いて、新たな発見があるんじゃないかなと思います。

いいね!じや、動物園にただ楽しみに行くのではなくて、学びの要素を加えよう。
動物園って、課題を挙げるとしたらどんなものか思い浮かぶかな?もしも思い浮かばないようなら、「動物園 ニュース」と検索して、最近何が問題になっているか調べたり、論文検索サイトで「動物園」で検索して、いくつか読んでみたりするといいよ。

なるほど。論文を検索して読んだら、動物園の課題の一つとして「動物福祉の確保」があることがわかりました。動物福祉って、今日までどうなっているのか調べてみようか。法律はどうなっているのだろう。専門の先生にお話も聞いてみたいなあ。

たとえば「動物園」の研究をしている先生を探すには、「動物園 法律」と、キーワード検索をして論文の著者を調べるとか、「動物園 研究 大学」というワードで検索して、大学の研究機関を見てみるとか、そんな方法もあるよ。

日本動物学会という研究団体があって、そこにインタビューしたいなと思いました。まずはそこにお話を聞いてみたい。実際に動物園では動物福祉の観点から配慮が行き届いているか、見たり飼育員さんに質問したりするのはどうかなと思います。考えてみます!

フィールドワークを考えるヒント

(3) 授業実践

2022年度は、2学期・3学期（9月～2月）に本教材を使用して12回の授業を実施した。以下は、2学期の授業概要⁷である。

概要（2022年9月～2023年2月：土曜日2時間目）

	日程	大テーマ	ページ	小テーマ	活動内容
1	9月10日	フィールドワーク	4	フィールドワークについて	フィールドワークの概要を理解する
2	9月24日		5	コースを考える	フィールドワークのコースを考える
3	10月15日		8	コースプレゼン（クラス）	グループで考えたコースを共有する
4	10月29日		9	コースプレゼン（全体）	クラスで選ばれたコースを全体で発表する
5	11月26日			採用コースの発表	採用コースについて理解し、選択する（その後調整）
6	12月3日	事前学習	10	各コーステーマ学習	文献や資料を用いてコースに関わる社会課題を調べる
7	1月11日	探究Week	13	事前学習	各コースごとにテーマに沿った事前学習を行う
8	1月12日			フィールドワーク	日帰り実地研修を行い、その問題に対する理解を深める
9	1月13日		14-15	事後学習	各コースの振り返りをし、発表用のスライドを作成する
10	1月14日		16	発表会	フィールドワークの学びをお互いに共有する
11	2月18日	レポート作成	19-22	1年 SDGs探究のレポートまとめ	一年間「探究」で学んだことについてレポートにまとめる
12	2月25日				

⁷ 9月3日（土）、11月12日（土）、11月19日（土）は、教材「探究×SDGs」における「身近なSDGsを発表しよう」「スマホ・ファッション」「2030年の世界をよりよくする経済活動とは？」を行った。

まず、フィールドワークを計画するために、前半で学習した「探究×SDGs」の振り返りをする。このSDGs学習の振り返りは、印象に残った内容や気づいたことをフィールドワークのプラン作りに生かすことを目的としている。次に、生徒は、グループでフィールドワークの内容を検討し、プランシートに記入する。「Let's do fieldwork!」は、プランシートの記入例やコースを考えるヒントなども掲載しているため、グループメンバーと協力してフィールドワークのテーマ・内容・行き先を主体的に計画できるように作成されている。完成したプランシートは、旅行業者の方に見ていただき、最終的なフィールドワークのコース決めの参考資料となる。また、各グループで企画したフィールドワークのプランは、クラスで発表し、人気投票を行い、一番魅力的で実現可能性の高いものを選ぶ。クラスで選ばれたグループは、学年全体の生徒に発表し、旅行業者の方から講評をいただき、最終的にフィールドワークの9コースを決定する⁸。その後、生徒は、行きたいコースを選択し、人数調整を経て、正式に参加コースが決まり、訪問先について調べるなどの事前学習に取り組む。フィールドワーク終了後には、レポートを作成し、提出することになっている。以下は、最終的に決定したフィールドワークの9コースである。

フィールドワーク 各コース概要

①「海洋汚染について考える」

新宿駅西口＝バス＝ 荒川沿い(北千住・八広)→昼食・浅草自由散策＝バス＝新宿駅西口

⁸ フィールドワークのコース数は、10コース程度を予定していたが、今年度は、旅行会社の方と相談して9コースに決定した。

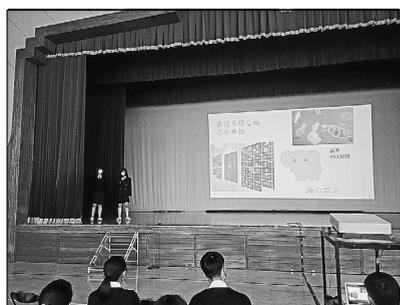
<p>② 「最先端の技術に触れる」</p> <p>新宿駅西口＝バス＝お台場カワサキロボットサービス(株)＝バス＝東京ベイ有明ワシントンホテル・昼食＝バス＝日本科学未来館＝バス＝マクセルアクアパーク品川＝バス＝新宿駅西口</p>
<p>③ 「花屋カフェで学ぶSDGs」</p> <p>原宿駅→LORANSカフェ→表参道自由行動(カフェ巡り)→現地解散</p> <p>※バス移動なしコース</p>
<p>④ 「JICA地球ひろば」</p> <p>市ヶ谷駅→徒歩→ JICA地球ひろば＝バス＝昼食・浅草自由散策＝バス＝新宿駅西口</p>
<p>⑤ 「中華街で考えるフードロス」</p> <p>新宿駅西口＝バス＝揚州飯店（体験・昼食）→徒歩→横浜班別行動＝バス＝新宿駅西口</p>
<p>⑥ 「東京スカイツリーのSDGs取り組みを学ぶ」</p> <p>新宿駅西口＝バス＝東京スカイツリー＝バス＝昼食・浅草自由散策＝バス＝新宿駅西口</p>
<p>⑦ 「八景島シーパラダイス」</p> <p>新宿駅西口＝バス＝八景島シーパラダイス＝バス＝新宿駅西口</p>
<p>⑧ 「館山ジビエセンター」</p> <p>蒲田駅＝バス＝館山ジビエセンター＝バス＝新宿駅西口</p>
<p>⑨ 「須藤牧場」</p> <p>蒲田駅＝バス＝須藤牧場（館山）＝バス＝新宿駅西口</p>



9月24日 コースを考える



10月15日 コースプレゼン（クラス）



10月29日 コースプレゼン（全体）



11月26日 採用コースの発表

5. 探究 Action Week

フィールドワークの前後には、事前学習・事後学習・全体発表会を設定した探究Action Weekを実施する。この4日間は、通常の授業がなく、生徒は、各フィールドワークのコースについての学びから振り返り、発表までの一連の作業を集中的に取り組むことになっている。

（1）事前学習

事前学習では、まず、都市と地域の社会学及びフィールドワークをご専門としている中央大学文学部長の新原道信先生にフィールドワークの意義や心構えについてオンラインでお話を伺う。その後、生徒は、各コースに分かれ、訪問先のテーマや調査内容について検討する。この各コースにおける事前学習では、

フィールドワークを調整していただいた株式会社Ridilover（リディラバ）⁹のワークシートや前述した「探究×SDGs」を活用する。また、テーマに関する専門家の方にご協力をいただき、オンラインで質問会を開催するコースもある。自由散策のあるコースでは、具体的に訪問したい場所と調査したいことをグループで話し合い、行程表を検討し、フィールドワークの準備をする。



オンライン質問会



ワークシートでの学習

（2）フィールドワーク

フィールドワークは、各生徒が問題意識をもって現場を訪れ、見学やインタビューを行うことで、その問題に対する理解を深め、よりよい解決策を提案できることを目的とした日帰り実地研修である。以下は、各コースの概要である。

○「海洋汚染について考える」

未来の持続可能な生活スタイルを考えることを目的にファシリテーターと一緒に荒川を歩き河岸に流れ着いたゴミの現状を視察する。その後は、各生徒のテーマを調査するために、浅草を自由散策する。



⁹ 修学旅行・校外学習を主体性を育む学びの場にするを目的に、SDGsや社会問題に関するスタディツアーを実施している。

○「最先端の技術に触れる」

お台場にあるカワサキロボットサービス(株)を訪問し、ロボットと協働する未来について考える。午後は、日本科学未来館・マクセルアクアパークを訪問し、最先端の技術を体験する。



○「花屋カフェで学ぶSDGs」

原宿にあるLORANSカフェを訪問し、障害者雇用を進める若手の女性起業家の方にお話を伺い、障害をもつスタッフの方が店舗で働く様子を見学する。「障害者雇用」を取り巻く社会の現状について学び、午後は、スターバックス皇居外苑前やERICROSE、新宿ダイアログカフェなどのカフェを巡りSDGsの取り組みについて調査する。



○「JICA地球ひろば」

JICA地球ひろばでは、世界の人々の暮らしや世界が抱える課題などを紹介する展示を国際協力活動経験のある「地球案内人」のガイド付きで見学し、その後、異文化理解・貧困・格差などを



テーマにしたワークショップを体験する。その後は、各生徒のテーマを調査するために、浅草を自由散策する。

○「中華街で考えるフードロス」

横浜中華街「揚州飯店」にて、肉まんや餃子を作った後、フードロスの取り組みやお店の歴史についてお話を伺う。午後は、各グループで中華街や赤レンガ、山下公園などを訪問し、SDGsの取り組みについて調査する。



○「東京スカイツリーのSDGs取り組みを学ぶ」

東京スカイツリーの社員の方から電波塔としての機能を維持する高い安全設計や新ユニフォームのプリントにおける無水化染色技術加工の採用などSDGsへの取り組みについてお話を伺う。午後は、各生徒のテーマを調査するために、浅草を自由散策する。



○「八景島シーパラダイス」

八景島の取り組むSDGsを学ぶためのバックヤードツアー、海のごみ問題・環境問題について考える東京湾ワンダーウォッチャーズ、魚を自分で釣り、その魚をフライにして食べ、命の大切さについて学べる食育プログラムを体験する。その後は、園内を自由に行動し、各生徒のテーマを調査する。



○「館山ジビエセンター」

ジビエを入り口にして一次産業の振興（農業、狩猟、漁業など）を考えることを目的に、獣害対策や里山のお話を聞き、実際にイノシシの解体を見学す

る。ジビエ料理を実食した後、午後は、罫を仕掛ける方法など狩猟体験をし、現地の課題を一緒に考える。



○「須藤牧場」

須藤牧場のある安房地域は日本酪農発祥の地であるが、その歴史を語り継ぐものが不足しており、地域内酪農家も年々減少している。牛のエサやりや乳搾り、バター作りを通して、酪農家の仕事を体験し、現地の課題を一緒に考える。



(3) 事後学習

事後学習では、フィールドワークを経験して知ったことや考えたことをコースごとに振り返る。また、グループごとにスライドまたは動画を作成して全体発表会の準備をする。スライドや動画は、以下のことが伝わるように構成する。

- ① コースの概要
- ② 事前学習で学んだこと
- ③ フィールドワーク中に発見したこと（気がついたこと）
- ④ フィールドワークをしていて、疑問に感じたこと
- ⑤ フィールドワークを経験した参加者の感想
- ⑥ フィールドワークの様子がわかる写真など
- ⑦ フィールドワークで出会った働く人について
- ⑧ 各研修場所についてのアクセス方法など
- ⑨ 自分達で立てた問いと、その答え（意識した課題とその解決策）

生徒は、フィールドワークの振り返りから発表の準備・練習までの一連の作業を1日かけて取り組むことになっている。



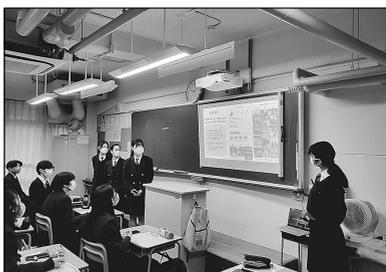
振り返りとスライド作成



発表の練習

(4) 全体発表会

全体発表会の目的は、学びの共有である。各コース（9グループ）が各教室に分かれ、それぞれ1グループ7分でプレゼンテーションを行う。そのため、生徒は、すべてのコースについて概要を知ることができる。発表後は、質疑応答やコースの異なる生徒とフィールドワークでの気づきや学びを共有する。



6. おわりに

2015年に国連でSDGsが採択され、2030年までに実現すべき17の目標と169のターゲットが策定された。学習指導要領では、前文で「持続可能な社会の創り手」の育成が明記され、高等学校では総合探究が導入された。「SDGs」と「総合探究」は、お互いに非常に親和性の高いテーマである。言い換えれば、学校現場において総合探究の実践に追い風が吹いているということである。現在、教育現場で求められているのは、学校全体のシステムの中ですべての教員が関わる「持続可能な社会の創り手」の育成である。

今後は、本校の総合探究におけるC.S. Journey の1年次Preparation（準備）だけでなく、2年次Participation（参画）、3年次Independence（自立）に

ついて汎用的な教材を作成していく予定である。総合探究の授業を展開する際に、教員の負担を軽減し、特別な準備なしで活用できるように環境を整えていくことが重要である。C.S. Journeyにおける2年次・3年次のプログラムについては、これに続く論考を参照されたい。

参考文献

文部科学省（2018a）「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説
総合的な探究の時間編」平成30年7月、文部科学省。

[https://www.mext.go.jp/content/
1407196_21_1_1_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1407196_21_1_1_2.pdf)（2022年5月4日）

文部科学省（2018b）「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」
平成30年3月、文部科学省。

[https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku
02-100002604_03.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf)（2023年1月21日）